

各 位

会 社 名： ウインテスト株式会社
(コード：6721 東証スタンダード市場)
代表者名：代表取締役 姜 輝
問合せ先：管理本部長 鎌田 文明
(TEL：045-317-7888)

「ジャパントラックショー in Fujispeedway 2025」 出展のご報告

当社は10月26日に富士スピードウェイ(静岡県駿東郡小山町)にて開催された「ジャパントラックショー in Fujispeedway 2025」において、トラック用テールゲートハンドリフターの出展と公開デモンストレーションを行いました。開催当日は、多くのお客様にご訪問をいただき、盛況に終わることができました。ご来場いただきましたお客様に心からお礼申し上げます。

出展した場所：富士スピードウェイ Aパドック 出展者展示エリア



■出展した製品

トラック用テールゲートハンドリフター MGC WTL-1000



製品名：WTL-1000

自重補償機構により搭載物の自重をゼロにすることで無重力状態とします。

女性でも簡単に重量物の上下が可能となります。当日は女性の参加者にも体験をしていただき、高評価をいただきました。

■当日の会場周辺の様子



あいにくの悪天候でしたが、関係業者の皆様及び家族連れの皆様も多く、華やかな展示会となりました。当社のブースでは、「自重補償機構(MGC)によるテールゲートハンドリフター」の展示デモを行い、ご来場者様には実際に体験をしていただき、「未来への可能性を感じられる」などのお言葉をいただきました。特に、複数の架装業者様からはコラボのお申し出をいただけるなど、実りある展示会となりました。

■デモンストレーションの様子



25 kgの水 x 3 = 75 kgの水を片手で上下しています。もちろん、油圧も空気圧も使っておりません。自重補償は、シンプルにバネと滑車だけで重量物の無重力化を実現しております。今回の展示品は、MGCの紹介も兼ねての展示機ですので、トラックの横に大きくバネ構造を隠す(安全のため)カバーがありますが、市販される製品のバネ構造は全てトラックの下に格納されます。また、上下の途中で手を離した場合、そこで止まるのはもちろんですが、急に人が乗った場合においても、上下5 cmで自動的にロックされ作業者の安全を守ります。



4箱 100kg にしてみました。



多くの方が体験デモに並ばれました。

お並びになった方々は、いったいどんな技術で自重補償を実現しているのか、興味津々で列に並び、説明員の説明を聞きながら、バネや滑車部分を覗き込むようにして見ていかれました。「パワーテールゲートは長い間、進化していない、久しぶりに新技術に触れた」などのお言葉をいただき、協業のお申し出などをいただきました。ありがとうございました。

■機構部、滑車の部分 世界初の技術



機構部分はシンプルに滑車だけで構成され、それを強力なバネが支えます。中央の写真の配線が見えるボックスは、自重補償点調整と安全機構であり、ここに少しだけ電気を使いますが、荷役物の上下は、バネと滑車の力だけです。滑車の位置の変更で、バネ加重を変化させ、荷役物の加重をゼロ近辺に保ちます。製品版ではもちろん、このBOXもトラック下部の見えないところに格納されます。

■まとめ

この度の富士スピードウェイでの展示会では、本当に多くの方に当社ブースに立ち寄っていただきました。派手な装飾のトラックやブースの中で、当社は地味なブースとなり、ご来場者の目に留まるかどうか不安もありましたが、ご来場いただいた皆様から様々なご意見をいただきましたので、販売に向けさらに改版改良を重ねてまいります。当社は、半導体の検査装置の会社であり、物流業界に関しましては新参者ですが、今後も存在感のある製品が提供できるように努力を重ね、重量物の荷役が障害となり女性ドライバーの進出を阻む一因となっておりました物流業界への女性進出に向けたお手伝い、また、高齢者にとっても優しく作業ができる環境を目指してまいります。

以上